

中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会報告 その4

広報10月号でお知らせしたとおり、中川村小・中学校のこれからについて村民のみなさんにご意見をお聞きするアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。結果は「資料1」のとおりです。第7回検討委員会（R5.1.30）で結果を確認するとともに、委員長から答申案が提案され協議が行われました。第8回検討委員会（R5.2.20）でも継続して協議が行われた結果、おおむね委員のみなさんの同意が得られ、答申の内容が確定されました。内容は「資料2」のとおりです。3月10日（金）に正副委員長から教育委員会に答申されました。教育委員会は検討委員会からの答申を中川村小・中学校のあり方の基本的な考え方として受け止め、令和5年度からは具体化に向け、詳細検討を進めていく予定です。

◆「統合」支持が3分の2
アンケートでは、中川村が目指すべき教育の方向性についてお聞きしました。中川村の教育環境の強み・課題に対応する教育施策として、「9年間の一体的カリキュラム」「学年規模拡大と異学年交流の充実」「村全体の教育資源の活用」といった「統合（小中一貫教育）」との親和性が高い施策を選択する方が多く、あり方の方向性として約3分の2の方が支持されました。一方、3分の1の方は「維持」「その他」を選択されていることにも十分配慮していく必要があります。

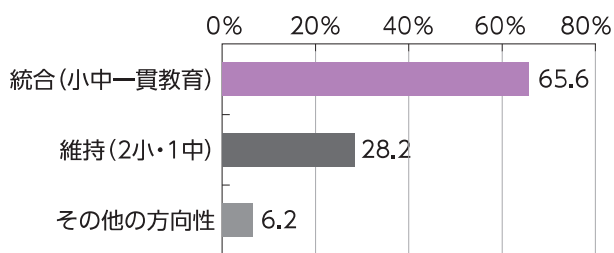
◆答申を基本的な考え方として
検討委員会では2年にわたってご協議いただきました。下平達朗委員長、宮下進吾副委員長はじめ、委員のみなさんのご尽力に感謝申し上げます。

教育委員会は、検討委員会からの答申をあり方の基本的な考え方として受け止め、令和5年度からは関係のみなさんへの説明やアンケートの自由記述の視点も取り入れながら意見交換を広く行うなど、具体化に向けた詳細検討を進めていく予定です。

村民のみなさんに引き続き関心を寄せていただき、新たな学校づくりに参画いただけるよう努めます。

資料1 アンケートの結果（抜粋）

- ・対象者 村内在住者1,000人（実施：R4.10.14～11.6）
- ・回答状況 503票（回収率50.3%）
- ・結果概要 「統合」「維持」「その他」から最も近い考えを選んでもらったところ、**「統合」65.6%、「維持」28.2%、「その他」6.2%**という結果になりました。



【アンケートのまとめ】

- 重要視する教育施策として、「興味のあることを自ら見つけ、探究し、発表する学習の充実」に回答が集中した。主体性・自己肯定感を高める教育施策として選択する村民が多かった。
- 問題意識への対応に向けて、「統合」と親和性の高い「9年間の一体的カリキュラム」「学年規模拡大と異学年交流の充実」「村全体の教育資源の活用」を支持する村民が多かった。
- あり方の方向性として、「統合（小中一貫教育）」が約3分の2の支持を得た。
- 自由記述では、今後に向けて活用できるさまざまな視点が提示された。新しい教育環境に積極的に取り入れていくことが求められる。

資料2 答申の内容（抜粋）

- ・中川村小・中学校の教育の強みと課題
 - 強み** 素直で良い子が育つ、安定した人間関係がある、地域を教材に学習しやすい など
 - 課題** 主体性・自己肯定感が低い、切磋琢磨しにくい、強みが活かしきれていない など
- ・中川村小・中学校の教育が目指す姿
自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓していく力を育む

【中川村小・中学校のあり方の基本的な考え方】

- 9年間の一体的に捉え、効果的に学ぶための独自のカリキュラムをつくる
 - 学年規模拡大・異学年交流により、多様な学習グループで学べる教育環境をつくる
 - オール中川で地域が学校と連携して、子どもたちの成長を支え育てる体制をつくる
- ※1～3のアプローチを強力に推進するために、**2つの小学校と1つの中学校を統合し、小中一貫教育を実施する**教育環境を整備することが望ましい。 ※保育園のあり方は含まれていない。継続検討が望まれる。